

# 平成29年度 境港市原子力防災訓練の 実施結果について

## ■ 訓練実施日

<input type="checkbox"/> 住民避難訓練等	平成29年11月19日 (日)
<input type="checkbox"/> 災害対策本部等運営訓練	同年 11月17日 (金)
<input type="checkbox"/> 原子力防災講座	同年 10月27日 (金)
	同年 10月31日 (火)
<input type="checkbox"/> 船舶避難訓練	同年 10月19日 (木)

平成28年度境港市原子力発電所環境安全対策協議会  
平成30年3月29日(木) 14時30分～  
米子コンベンションセンター国際会議場

# 訓練実施状況(全般)



## 1 災害対策本部等運営訓練

- ① 境港市警戒本部及び災害対策本部運営訓練の実施
- ② 防災ネットワークシステムを利用したテレビ会議
  - ◇ 訓練参加者：15名（リエゾンを含む）
- ③ 境港警察署及び境港消防署派遣員との情報共有
  - ◇ 訓練参加者：各署1名
- ④ 中国電力派遣員による事象報告
  - ◇ 訓練参加者：2名



本部運営訓練

### <主な成果>

- ① 境港市警戒本部運営訓練及び境港市災害対策本部運営訓練開催による、情報共有、本部長の指示の確認等を実施
- ② 県災害対策本部会議に参加（TV会議）
- ③ 国・2県6市TV会議に参加
- ④ 災害時の組織的な通信連絡（通信及びTV会議）の実効性の確認
- ⑤ 中国電力の情報連絡員による事象想定に関する専門的な説明



2県6市TV会議

## 2 住民避難訓練

### （1）参加住民数等

地区名	境	余子	外江	合計
参加者数	23	27 / 4	47	101
一次集結所数	5	3	3	11
避難手段	バス	バス / 自衛隊車両	バス + JR	

◆ 訓練参加職員：52名

### （2）住民避難訓練

- ① 一時集結所参集訓練
- ② 避難者名簿の記載
- ③ 多様な避難手段による避難訓練
- ④ 防護服等着用訓練（職員）
- ⑤ 消防団による誘導訓練



一時集結所参集状況



バスによる避難



JRによる避難

## （3）要支援者搬送訓練

地区	境	余子	外江
参加者数	3	10	11
避難手段	リヤカー	車いす 視覚障がい者同行	車いす 担架



自衛隊車両による避難

- ① 各地区で避難行動要支援者搬送訓練を実施
- ② ヘリが運航中止のため、陸自高機動車による避難退域時検査会場までの搬送訓練を実施



車いす搬送



リヤカー搬送

### <主な成果>

- ① 避難手順の周知
- ② 原子力防災の理解促進
- ③ 関係機関等との連携強化
- ④ 市職員への対応要領を普及
- ⑤ 荒天時の対応を検討



担架搬送



視覚障がい者同行

## （４）避難退域時検査会場

- ① 避難退域時検査会場（イオンモール日吉津）で車両点検を受け、車体洗浄により付着した放射性物質の除染を受けた。職員及び住民は下車せず、バス内で洗車状況を見学した。
- ② 住民は、避難退域時検査会場で放射性物質の付着状況等の点検を受けた。
- ③ 住民に簡易除染役（２名）、健康相談役（３名）、外国人役（２名）として訓練に参加してもらうことにより、各種要領を体験・見学することができた。
- ④ 体表面パネル式β線スクリーニング装置により、β線放射性物質付着の有無を検査体験した。



### <主な成果>

- ① 車両除染実施状況の確認
- ② 避難退域時検査会場における一連の検査等の体験

## 3 安定ヨウ素剤服用説明等

- ① 各地区の住民を境公民館、余子公民館及び市民体育館に集め、安定ヨウ素剤服用説明・問診票記載要領・問診・ヨウ素剤配布・服用までの一連の動作について説明及び一部の住民に体験・展示させることにより理解を深めることができた。
- ② 服用説明には西部薬剤師会から各地区2名、計6名の薬剤師の派遣を受け実施し、専門的な説明のほか、アレルギーや持病保有者の服用等について質疑応答が行われた。

◆訓練参加者数：102名  
薬剤師 各地区2名（計6名）

### <主な成果>

- ① 安定ヨウ素剤服用に至るまでの一連の体験
- ② 薬剤師との調整、連携の強化



## 4 安定ヨウ素剤（水剤）配送訓練

- ① 調剤拠点薬局（増谷薬局蓮池店）の薬剤師による安定ヨウ素剤（水剤）の調合訓練の実施
  - ② 市職員による一時集結所への配送訓練の実施
- ◇ 訓練参加職員 : 2名  
配送箇所・時間 : 6カ所・23分



水剤受領

### <主な成果>

- ① 配送経路、配送場所の確認
- ② 薬剤師との連携強化



水剤調合

## 5 入院患者搬送訓練

境港済生会総合病院では、患者役に見立てた職員を入院患者として、自衛隊車両による搬送訓練を行った。

- ※ 済生会病院における市職員の訓練参加はなし。  
訓練記録要員として、職員1人を派遣し訓練状況を記録した。



入院患者搬送

## 6 学校、保育所・幼稚園等の訓練

学校等において、通信連絡訓練、学校等の施設状況等確認、保護者引渡し手順の確認及び屋内退避訓練を実施

（実施日時）

・平成29年11月17日（金）10：00～11：20

わたり、あがりみち、なかはま、梅檀、みなと、つばさ、外江及び夕日ヶ丘保育園、美哉及び聖心幼稚園

・平成29年11月21日（火）10：30～10：45

あまりこ及び育成保育園

・平成29年12月 1日（金）10：50～11：55

渡、外江、上道、誠道、境、余子、中浜小学校、第一、第二、第三中学校

### <主な成果>

- ① 原子力災害発生時の各種手順を確認できた。
- ② メール等による保護者への情報等配信を実施できた。
- ③ 屋外活動中の児童等の屋内退避訓練ができた。

## 7 原子力防災講座等

実施日：平成29年10月27日（金）及び31日（火）

- ・取大学 北 実助教による講座  
「放射線の人体への影響と原子力災害時の防護措置」
  - ・住民避難に関するワークショップ（県）
  - ・境港市広域住民避難計画の説明（市）等
- ◆ 訓練参加者 住民：33名 職員3名  
＜主な成果＞ 原子力災害時の避難要領等の理解



原子力防災講座

## 8 船舶避難訓練

実施日：平成29年10月19日（木）

船舶避難訓練は、境港から鳥取港への移動は天候不良のため中止となり、海上自衛隊艦艇「ひうち」への乗船及び艦内における説明、見学のみを実施した。

- ◆ 訓練参加者 住民：11名 職員：2名
- ＜主な成果＞
- ① 船舶避難の概要及び避難時の船内行動の理解
  - ② 船舶避難時の海上自衛隊の対応要領



乗船状況



艦内での説明状況



艦内見学

# 避難訓練参加住民主なアンケート結果

住民避難訓練の参加住民にアンケートを実施。

(境港市民の回答数は、35人)

**参加者の男女比は9：1で、60歳以上が約7割を占めている。**

<b>Q1</b>	緊急速報（エリア）メールは受信できましたか。
アンケート結果	評価・対策等
<b>7割以上が「受信できた」</b> 2割程度が「受信できたが、メールに気が付かなかった」 「受信できなかった」	<ul style="list-style-type: none"><li>・対応していない機種がある。</li><li>・受信設定が必要な場合がある。 ⇒ 上記の周知に努めます。</li></ul> なお、情報伝達は、さまざまな手段と併用して実施します。
<b>Q2</b>	今回の訓練において、改善事項がありますか。
5割がない。 2割がある。	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難行動の意味が分からない。 ⇒ 自治会等への周知に努めます。</li><li>・訓練は人数が少ないが、実際は大人数になるので、スムーズに集合・検査できるようにしたい。 ⇒ 継続した訓練を通じ改善を図ります。</li></ul>

Q 3	これまでに原子力防災訓練に参加したことはありますか。	
アンケート結果		評価・対策等
6割が「初めて」 4割程度が「2回以上」	26% 59歳以下 74% 60歳以上 ⇒ 若い世代の参加を募り、49歳以下は6%から15%に増加したが、訓練参加者の高年齢化に変化は見られなかった。 引き続き、広報に努める。	
Q 4-1	事前に行った原子力防災講座に参加しましたか。	
4割が「参加した」 5割が「参加していない」	事前講座への参加についての啓発に努める。	
Q 4-2	学習した内容は訓練に役立ちましたか。	
6割が「役に立った」 1割が「変わらなかった」	実施の成果はあったが、避難訓練参加人数に対し防災講座参加者が少なかった。 ※2日間、夜間に各1回実施 ⇒ 参加しやすい開催方法を検討する。 参加に関する広報に努める。	

Q 5	原子力災害時の避難についてもっと知っておきたいこと或いは知りたいことは何ですか。	
	アンケート結果	評価・対策等
	4割が 「避難の方法」 3割が 「情報入手・連絡方法」 1割が 「被ばくを避ける方法」	障がい者の避難について知りたい。 ⇒ 防災訓練や出前講座等を通じて知識の普及に努める。 自治体からの連絡方法が知りたい。
Q 6 - 1	段階的避難という言葉聞いたことがありますか。	
	5割が 「聞いたことがある」 <b>5割が 「聞いたことがない」</b>	認知度は増加傾向にあるが、継続した広報活動等により認知度の向上に努める。
Q 6 - 2	今住んでいる地域の段階的避難の区分を知っていますか。	
	3割が 「知っている」 <b>6割が 「知らない」</b>	段階的避難という言葉は知っているが、意味を知らない住民が多い。 ⇒引き続き住民への周知に努める。

住民からの  
意見等

- ・ 避難経路、道順、近所の状況
- ・ 市民への十分な周知及び理解の浸透
- ・ 我先にと行動せず全員が段階的避難を心掛ける
- ・ 段階的避難の順番の様なリーフレットが欲しい
- ・ 障害者対応の避難
- ・ 段階的を現実的のものにするために、避難路の状況を頻繁に放送すべき。
- ・ 避難をする時期や方法がわからない

Q7-1	原子力災害時の避難手段は何ですか。	
アンケート結果		評価・対策等
7割が 1割が 1割が	「自家用車」 「バス」 「JR」	避難形態に応じた避難要領の周知に努める。
Q7-2	自家用車による避難が良いと思う理由は何ですか。	
8割が 5割が	「避難後も移動しやすい」 「多くの家財を運ぶため」	<p>(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報がわかる方法があれば各自で避難するほうが時間短縮になる。</li> <li>・室内から車内と外気にあたらなくてすむ。</li> <li>・避難所に適合しない家族(障がい者、年寄り、幼児等)に対応できる。</li> <li>・車内のほうが被爆を避けられる。</li> </ul>
Q7-3	バス、JR避難が良いと思う理由は何ですか。	
3割が 3割が 2割が	<p><b>「渋滞や事故が心配」</b></p> <p>「場所を知らなくても避難所に到着できる」 「自分で運転できない」 「車が無い」</p>	<p>(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故時は自家用車を制限又は禁止する。</li> <li>・優先車両を登録し使用する。</li> </ul>

## 自由記載欄への住民の記載内容

- 訓練情報の発信数が少ない。  
公報誌、新聞、テレビ、ラジオを利用し、広報することで多数の参加者による訓練が可能と思われる（自治会では難しい）。
- 米子市のようにビニールカップを用意してほしかった。本番の時は必要だと思います。
- 住所は明治町ですが、自治会は馬場崎町です。できれば馬場崎町の方と一緒に同じ所に避難できれば心強いです
- 緊急時（本番）ではバス、JRなどは市が決めるのでしょうか？  
バスでは出発まで何時間を決めておられるか知りたいです。
- 大きいバスなのに訓練参加が少なく残念です
- 自治会長さん、民生委員さんなどにも参加してほしかったです。
- 初めての参加で、いろいろ流れが分かり勉強になりました。
- 風の強さ、方向などで、避難地（イオン）に放射線ヨウ素が、避難者より先に（8時集合、9時43分JR、10時30分避難地到着）到着してないか。
- 放射線ヨウ素の移動する（広がる）時間は？
- 安定ヨウ素が使用できない人への代替えはあるのか？
- 原発がメルトダウンを起こした時、鳥取までの道路は、損壊、渋滞が予想されるので、友達の漁船に乗せてもらって移動するのが、境港の場合、常から船舶移動を第一に考えておくべきだと思う。
- 訓練とは言え、防災に関し、これで良いのかと思う。もし、被爆したら現在の場所に住めなくなったら。訓練で終わることを願う。
- 緊急エリアメールを受けたが、一旦消すと二度と見るができなかった。重要情報なので携帯へ残るようにしてほしい。
- 初めてのことで知識不十分。もっと勉強しておきたい。町内あげて勉強が必要。